

体験！
日本のお正月

第三回

"Year in, year out,
Let's share the Japanese New Year
experience with our friends all over the world."

世界の仲間と ゆく年くる年



A HAPPY
NEW YEAR



Report



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

体験の風をおこそう





国立青少年教育振興機構
理事長

田中 北一郎

ごあいさつ

グローバル化が加速する国際社会の中で、我が国においては、大学の国際化の推進や世界に雄飛する人材の育成を図るため、平成20年に「留学生30万人計画」骨子が策定され、留学生受入れの拡大が進められています。平成23年5月現在、我が国の大学などで学ぶ外国人留学生の数は、約14万人に達し、10年前と比較すると、その数は倍近いものとなっています。

このような中で国立青少年教育振興機構では、平成22年度から東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として、留学生と日本人学生との交流の中で、日本のお正月を体験する「世界の仲間とゆく年くる年～体験！日本のお正月～」を実施してきました。これまで、参加した方々からたいへん好評をいただいております。今回もより実りある事業を目指して実施しました。事業は平成24年12月30日から平成25年1月2日の3泊4日で行い、271名が参加しました。日本を含めた26ヵ国・地域の学生が集まり、昨年度の19ヵ国・地域から大幅に増加しました。

昨年度の参加者が、今回はグループリーダーとして参加してくれるという、うれしい循環も見ることができました。参加者たちは、日本伝統の「だるまの絵付け」、みんなで協力して行う「太巻きづくり」の体験、年始を迎えるカウントダウンパーティや東京のお正月散策を楽しみました。さらに、各グループでの出し物づくりと発表などで交流を深めました。

今年は、「チャレンジ」をテーマに取り組み、仲間と共にあるいは自分自身の中で様々なことにチャレンジしていただいたことと思います。参加者からは、「異文化、国籍など関係なく、皆が国際家族になった気分でした。できれば次回も参加したいです！多くの友達に参加を薦めます。」という声もいただきました。

参加者と寝食を共にしていただいた53名のボランティアのみなさん、だるまの絵付けをご指導いただいた「渡辺だるま屋」渡辺半次郎様、太巻きづくりをご指導いただいたセンターのカフェテリア「ふじ」村田直史支配人をはじめ従業員の皆様ありがとうございました。

また、今年の暮れもたくさんの留学生のみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

平成25年1月



体験！日本のお正月！ 世界の仲間とゆく年くる年



日時 平成24年12月30日(日)～平成25年1月2日(水)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター **参加者** 271名(26ヵ国・地域より)

プログラム

12月30日 <small>SUN</small> 日	13:00	受付開始	15:00	オープニングセレモニー				
	15:30	レクリエーション	17:00	夕食・入浴	19:00	グループ活動①		
12月31日 <small>MON</small> 月	7:00	朝のつどい	7:30	朝食	8:00	餅つき	9:50	太巻きづくり(昼食)、だるまの絵付け
	14:30	グループ活動②	17:00	夕食・入浴	19:30	カウントダウンステージ	24:00	ニューイヤードダンス
1月1日 <small>TUE</small> 火	7:00	朝食	10:00	東京のお正月散策	16:00	グループ活動③		
	17:00	夕食・入浴	19:00	グループ発表予選会				
1月2日 <small>WED</small> 水	7:00	朝のつどい	7:30	朝食	8:00	清掃活動	10:00	グループ全体発表会、表彰、閉会式

1日目 Program

12月30日 SUN

ゆく年
くる年



留学生と日本の学生が東京のオリンピックセンターに大集合。
今年は参加国・地域が26にまで増え、国際色はとても豊かです。
日本語をベースにして世界各国からの学生と交流することに、みんなの胸が高鳴ります。

13:00 受付開始

15:00 オープニングセレモニー

15:30 レクリエーション

17:00 夕食・入浴

19:00 グループ活動①



期待や不安を胸に、
ぞくぞくと日本全国から参加者が集まりました。



これから3泊4日と一緒に過ごす仲間と初対面。
どんな仲間に出会えるか楽しみです。



緊張も少しずつほぐれて笑顔が増えてきました。



いよいよセレモニーがスタートしました。
26カ国及び地域から271名が集合しています！



ゲームが進むにつれてグループの仲間とも打ち解け、
「他のチームに負けるな！」と白熱中！



グループ発表会優勝を目指して、各グループでアイデアを練ります。その中から団結力が生まれます。

2日目 Program

12月31日 MON



大晦日は日本のお正月らしさたっぷりの1日。
今回は新しく「だるまの絵付け」も入り、願いをこめて、自分だけのだるまを作成します。
夜は、仲間たちと賑やかに新年カウントダウン。

7:00 朝のつどい

7:30 朝食

8:00 餅つき

9:50 太巻きづくり(昼食)、だるまの絵付け

14:30 グループ活動②

17:00 夕食・入浴

19:30 カウントダウンステージ

24:00 ニューイヤードンス



毎年恒例の「餅つき体験」！
今年もおいしいお餅ができますように・・・



参加者みんなでついたお餅の味は格別です！



「だるまの絵付け」に初めて挑戦した人も多いようですが、世界に一つだけのだるまに大満足！



毎年恒例の参加者全員で作る太巻き！一人ひとりが力を合わせて長い太巻きを完成！



新年を迎えると同時に現れた
コミカルなダンサーたちに、みんなびっくり！



リーダーたちの歌声に合わせて、ダンスタイムが
スタート。お祝いムード満点です！



明けましておめでとうございます！
元旦は、グループメンバーとの絆を深める1日。夜のグループ発表予選会を控え、楽しみにしていた東京散策からスタート。陽射しの温もりが心地よい、散策日和となりました。

- 7:00** 朝食
- 10:00** 東京のお正月散策
- 16:00** グループ活動③
- 17:00** 夕食・入浴
- 19:00** グループ発表予選会



2013年を迎えました。「明けましておめでとうございます」の挨拶から始まります。



「東京お正月散策」では、グループ毎に、東京のお正月の雰囲気を楽しみました。



予選会ではどのグループも完成度が高く、甲乙つけがたい接戦が繰り広げられました。



オリンピックセンターに戻ると、「ここに行ったよ」「ここが面白かったよ」など、グループ間での情報交換が尽きません。



応援にも熱が入ります！



プログラムもあと1日。参加者は絆を深め、一つの大きな家族のようになっています。



密度の濃いプログラムも今日が最終日。別れを惜しむ中にも、達成感の表情が見られます。将来の夢を見つけた人、活動する仲間を得た人、とにかく楽しかったという人・・・いろんな思いを胸にして、さようなら！再会の日を楽しみに！

7:00 朝のつどい

7:30 朝食

8:00 清掃活動

10:00 グループ全体発表会、表彰、閉会式



最後の朝のつどいです。寒い冬の朝のつどいも、仲間と一緒になら楽しく過ごせます。



いよいよグループ全体発表会です。ステージに立つとより一層気合が入ります。



表彰式で自分のグループの名前が呼ばれて思わず飛び上がる参加者たち。



応援する側も熱が入ります！会場が一体となって沸き立ちます。



優勝は、遠距離恋愛をファンタジックに表現した「あいたくて...」。頑張った甲斐がありました。



文化や言語の壁を越えた深い絆が生まれました。これからその絆を発展させていきたいですね！

参加者の声



ボリス・クジメンコ

出身国 ロシア
学校名 東京外国語大学

思いがけない楽しみ

「ゆく年くる年」プログラムは想像以上に楽しかったです！もともと日本のお正月を十分に味わいたいと思って申し込んだのですが、実際に得たのはそれ以上のものでした。留学生として日本に来た私にとってはほぼ全てが初体験で、だるまの絵付け、ラジオ体操、食べたことのない料理、ダンスパーティーは忘れられない思い出になりました。

特に気に入った活動は、太巻き作りとグループ活動の二つです。一番感動したことは、やはりグループ活動です。こんなにすぐに人と親しくなれたのは初めてでした。グループ発表での演奏も、その準備も最高に楽しかったです。異文化、国籍など関係なく、皆が国際家族になった気分でした。できれば次回も参加したいですし、次回はなるべく多くの友達に参加を薦めます。



李 科佳 (リ・かか)

出身国 中国・河南省
学校名 奈良女子大学

チャレンジ精神を忘れない

思いや感動などの溢れる「ゆく年くる年」でした。4日間の体験の中で、150人で約50mの太巻寿司を作るにしても、限られた時間でグループメンバーを揃えて何か隠し芸を立ち上げるにしても、最初は無理だと思いましたが、皆の力で達成することができました。やってみないとわからない、粘り強く頑張ることをみなさんから教えてもらいました。

世界の仲間と交流することに戸惑う人は私だけではなかったと思います。ゲームや芝居やグループ活動などを通じて、言葉ではなく相手に伝えよう、相手を理解してあげようという懸命な姿が一番大切だと勉強になりました。

みなさんがいてくれたからこそ、最高に幸せなお正月を送ることができました。来年もまた参加しようと思います。



リック・リュウ

出身国 カナダ
学校名 東京大学大学院

日本語を使って貢献したい

私は日本のお正月についてはいくらか知識はあったのですが、これは予想以上の素晴らしいプログラムでした。

プログラムは目的が明確で、スケジュールは濃密でした。日本語でないとメンバーと話ができなため、授業よりもずっと多く日本語を話すことができましたし、チーム作りを重視したグループ活動を行う中で、パフォーマンス発表などグループ全体で責任を負うような場面では、やり甲斐を感じました。

この事業によって私はコミュニケーションに自信が付き、日本語でさらにチャレンジするための準備ができました。そして日本語学習へのさらなる意欲のみでなく、チームの目的達成のために日本語がいかに重要であるかを理解しました。これからは、チームで活動するイベントを企画し、地域に貢献していきたいと考えています。



小山内 誠華 (おさない・せいか)

出身国 日本
学校名 千葉県立東金高等学校

私の、道が決まった日

私が一番思い出に残ったのは、班のメンバーと話している時でした。ご飯の時間、東京散策、待ち時間にたくさん話しました。中でも印象深いのは、日本の文化や日本の物について質問されたときでした。私は、正しい意味や、何でそれを使うのかなどの受け答えが出来ませんでした。自分の無知を思い知らされました。また、東京散策でおみくじを引いたときに書いてある意味を説明したこともありました。

このような経験を通して、もっと日本の文化を紹介したい、外国の人と話したいという気持ちが芽生えました。その時、メンバーにガイドさんに向いていると言われました。それまで将来の道に悶々としていた私の道が決まった瞬間でした。ガイドでしたら、日本の文化も紹介でき、外国の方とたくさん話せます。この時言ってくれたメンバーに感謝です。

自分の夢が決まった素晴らしい行事でした。



カロリーナ・ロハス

出身国 コロンビア
学校名 東京学芸大学大学院

YUKUTOSHI, An Amazing Experience (素晴らしい体験)

全てにおいて一体感や親和感を感じさせる内容でした。どの活動においても学ぶことは多く、それは日本文化に触れることのみで、世界中の学生とともに過ごし、彼らの文化からも学ぶことができたからです。

グループ活動は良い日本語練習の機会ともなりました。課題に直面した際にチームワークで乗り越えられたのも忘れがたい思い出です。伝統的な食事を摂ることで日本文化をより学びたくなりましたし、太巻き作りと餅つきも印象深いプログラムでした。東京散策もとても楽しく、お寺に訪ねるのは私には新鮮な出来事でした。コミュニケーション面では、お互いを知り、楽しむ上で言葉は障害にはなりません。別れは悲しかったのですが、今も友人とは連絡を取っています。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



レイモンド・タン

出身国 マレーシア
学校名 上智大学

“世界の仲間とゆく年くる年”って素晴らしい！

“世界の仲間とゆく年くる年”のここが素晴らしいです！

①チャレンジする心を大事にすること。150人で太巻き作りにチャレンジ！達磨の絵付けにチャレンジ！寒い冬の朝でラジオ体操にチャレンジ！②活動はグループで決めること。出し物は何にする？元日の東京散策はどこへ行く？全部グループのメンバーで意見を出し合って決めます。そのため、非常に多様性に富み、個性豊かな催しことができました。③スタッフが多くて親切であること。これは、開会のゲームなどのような大人数で行う活動がスムーズに進行できる秘訣です。親切にフォローしてくれたので、参加者も楽しく活動に参加できました。

皆さんには是非このプログラムを薦めたいです！

スタッフの声

84名のスタッフのうち、ボランティアは53名！ ボランティアの活躍で作り上げた「ゆく年くる年」



グループリーダー（ボランティア）

佐藤 麻衣（さとう・まい）

学校名 日本女子大学

**お互いのことを
知ることから始める**

ゆく年くる年は本当に、楽しかった!! 一番の思い出は、なにより、班のみんなと「仲間」になれたことです。私の班は、中国人4人・台湾人1人・韓国人1人・日本人1人でした。人見知りの子、日

本語を苦手とする子ももちろんいて、どう仲良くなっていくか不安要素の多い始まりでしたが、かくし芸大会では、テーマが「異文化交流」とあったため、話し合いのときお互いのことを話し合い、知ってどんどん仲良くなっていきました。普段の会話も、みんなが集まっているときにできるだけ話題を振り、会話を共有するように心がけていました。最後には、すごく固かった雰囲気も、冗談を言い合えるような仲になりました。別れ際に撮った写真のみんなの笑顔は本当にきらきらしていて、楽しい思い出が蘇ってきます。ここで出会った仲間との繋がりをこれからも大切にしていきたいです。



グループリーダー（ボランティア）

劉 行健（リウ・コウケン）

学校名 横浜国立大学

**こんな「愛のある」イベントの
存在に感謝**

「違う国や地方から来た若者たちが、一緒に新年を迎えるのをきっかけに、兄弟のように在り、言葉の壁を笑顔で乗り越えた。国境なんて存在しない。この場所は愛に満たされ、純粋な喜びと楽しさが溢れている。」去年のその思いを忘れられず、今年はグループリーダーを務めた。

去年とは少し違う立場で、メンバーたちのことを最優先にし、全員の気持ちを把握することに苦労したが、皆が分かりあい、譲り合い、隠し芸にも一生懸命、自分だけでなく他人のために努力した。去年よりも素晴らしい経験ができ、参加者全員も成長したと思う。最後みんなを見送る時に、涙をおさえられなかったが、「ゆく年くる年」を機に、またこれからみんなで一緒に造る物語が楽しみだ!



統括リーダー

二瓶 明日美

（にへい・あすみ）

**「笑顔」が教えてくれた
大切なこと**

「最後は絶対に、グループみんなで、笑って帰ろう」私がグループリーダー達と、よく話していた言葉です。言葉の壁、価値観の違い…。何度も意見がぶつかったグループ。なかなか心を開けない

留学生…。そのたびに悩み、みんなでアドバイスしました。グループ発表予選。私は涙が出ました。それぞれが壁を乗り越え、「いい顔」をしていたからです。結果発表後「自分のグループで良かったと思う人」という質問に、全員が笑顔で手を挙げました。その姿に「国や文化は違っても、共に活動し、共に考え、理解しようとするれば、繋がれる」とことを教わった気がします。最終日、参加者達が涙を流す中、この歌が流れていました。「♪君が笑えばこの世界中に もっともっと幸せが広がる」ここでの出逢いで、世界に大切に思える人がまた増え、その人の国のことも大切に考えるきっかけとなっています。この事業で1人1人の心に蒔かれた種が、いつか平和な社会につながっていくことを、心から願っています。



グループチーフ

磯田 浩司（いそだ・こうじ）

NPO法人 good! 代表

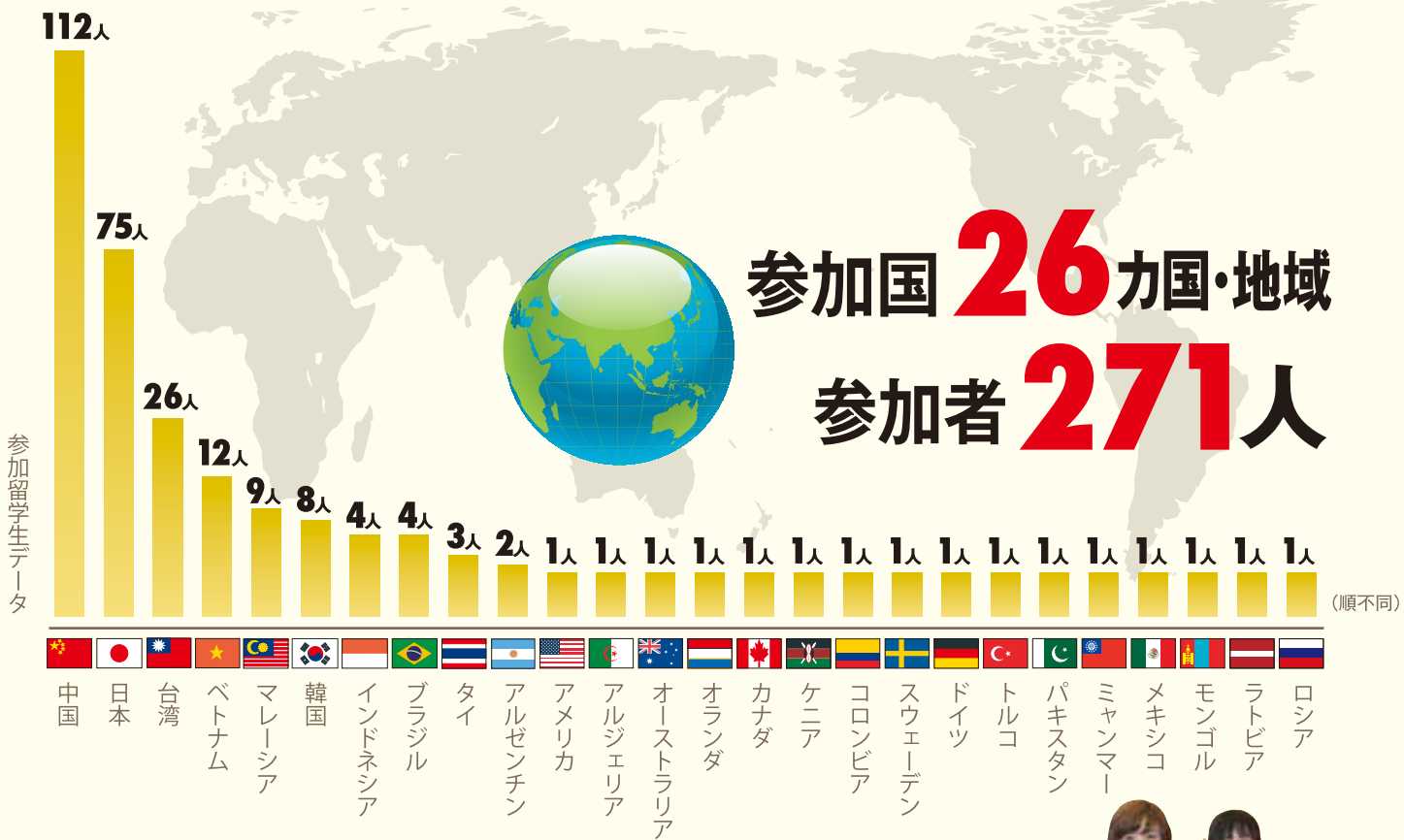
リーダーたちの本気が参加者の糧に

留学生参加者たちに最高の年末年始を過ごしてもらおうべく奮闘する50名の「グループリーダー」と、そのリーダーたちをまとめる11名の「統括リーダー」たち。リーダー、といってもそれほど経験がある訳ではなく、しかもグループの構成員は世界中から集まった国も文化も年齢も異なる顔ぶれ。限られた時間の中でチームビルディングをしながら、いくつものハードルを越えていかななくてはなりません。言葉の壁でなかなか打ち解けられないメンバーがいたり、逆にどこまでもマイペースで自分勝手な行動を続けるメンバーがいたり。体調を崩す者や、プログラムの途中で帰ってしまう者もいました。

リーダーたちはその度に落ち込んだり、自分を責めたりしながら、それでも笑顔で最終日を迎えるため、必死で踏ん張りました。それを支える統括リーダーたちも、彼らの話に耳を傾け、励まし、共に悩みました。誰もが、それぞれの立場で本気で向き合ったからこそ、今回も、本当にたくさんのドラマが生まれたのだと思います。

最終日、涙で別れを惜しむ会場で、前回に引き続き統括リーダーとして参加してくれた小学校教諭が私のところにやって来て言いました。「昨年ここで学んだリーダーシップについて、自分の子どもに対して実践してみました。すると生徒たちの言動がかわり、それぞれがゴールを意識して動くようになったのです。本当に驚きました…。」

こんな魅力的なリーダーシップトレーニングの場があること、そしてそれが確実に参加者達の糧になっていることがとても嬉しく、改めて、このプログラムの持つ力と大きな可能性を再認識することになりました。このような取り組みが大きく広がっていくことを、願わずにはられません。



参加校一覧【合計117校】(順不同)

国公立大学等【計47校】

- 北海道教育大学 1
- 北海道大学 1
- 北見工業大学 4
- 秋田大学 3
- 宮城教育大学 3
- 東北大学 6
- 山形大学 10
- 会津大学 3
- 一橋大学 2
- 首都大学東京 1
- 電気通信大学 2
- 東京外国語大学 5
- 東京学芸大学 4
- 東京工業大学 5
- 東京大学 14
- 宇都宮大学 1
- 筑波大学 9
- 埼玉県立大学 1
- 埼玉大学 1
- 千葉大学 2
- 総合研究大学院大学 2
- 上越教育大学 2
- 新潟大学 1
- 富山大学 1
- 山梨大学 1
- 信州大学 3
- 静岡県立大学 1
- 静岡大学 6
- 岐阜大学 8
- 金沢大学 6
- 愛知教育大学 1
- 名古屋大学 1
- 京都大学 2
- 京都府立大学 1
- 三重大学 1
- 大阪大学 6
- 奈良女子大学 2
- 神戸大学 1
- 兵庫教育大学 1
- 高知大学 3
- 徳島大学 1
- 鳥取大学 1
- 県立広島大学 1
- 広島市立大学 1
- 広島大学 3
- 北九州市立大学 2
- 放送大学 1

私立大学【計37校】

- 国際教養大学 1
- 秋田国際教養大 1
- 東北工業大学 1
- 早稲田大学 6
- 青山学院大学 7
- 国士舘大学 2
- 日本大学 5
- 慶応義塾大学 3
- 上智大学 4
- 法政大学 3
- 明治大学 2
- 学習院大学 1
- 専修大学 1
- 東京家政大学 1
- 東京都市大学 1
- 武蔵野大学 1
- 文教大学 1
- 立教大学 1
- 麗澤大学 4
- 城西国際大学 2
- 川村学園女子大学 1
- 神奈川大学 3
- フェリス学院大学 1
- 十文字学園女子大学 1
- 南山大学 2
- 中部大学 1
- 名古屋学院大学 1
- 名古屋短期大学 1
- 名城大学 1
- 同志社大学 2
- 関西外国語大学 2
- 大阪国際大学 2
- 倉敷芸術科学大学 1
- 九州国際大学 1
- 長崎国際大学 2
- 長崎純心大学 1
- 立命館アジア太平洋大学 1

国立高等専門学校【計8校】

- 群馬工業高等専門学校 2
- 木更津工業高等専門学校 1
- 東京工業高等専門学校 1
- 広島商船高等専門学校 1
- 呉工業高等専門学校 2
- 徳山工業高等専門学校 1
- 阿南工業高等専門学校 3
- 沖縄工業高等専門学校 1

専修学校・各種学校等【計13校】

- ATI 東京日本語学校 9
- アジア学生文化協会 6
- 中央工学校 2
- ジェド日本語学校 2
- 淑徳日本語学校 2
- ウェストコースト語学院 1
- 東京ギャラクシー日本語学校 1
- 国際外語・観光・エアライン専門学校 1
- 京都文化日本語学校 4
- ECC 国際外国語専門学校 4
- 学校法人エール学園 1
- 県費研修生 鳥取 1
- 県費研修生 愛媛 1

高等学校【計11校】

- 埼玉県立戸田翔陽高等学校 3
- 埼玉県立浦和東高等学校 1
- 千葉県立東金高等学校 2
- 松戸市立松戸高等学校 1
- 千葉県立成東高等学校 1
- 千葉県立流山おおたかの森高等学校 1
- 橘学苑中学校・高等学校 1
- 神奈川県立金沢総合高等学校 1
- 神奈川県立秦野総合高等学校 1
- 神奈川県立横須賀光明高等学校 1
- 南山国際高等学校 1



参加アンケート結果

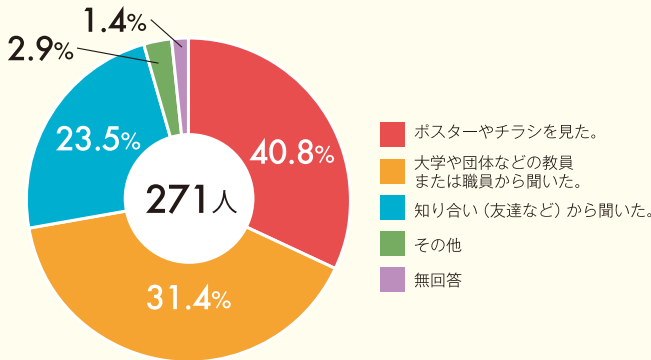


Interview

参加者に聞きました。

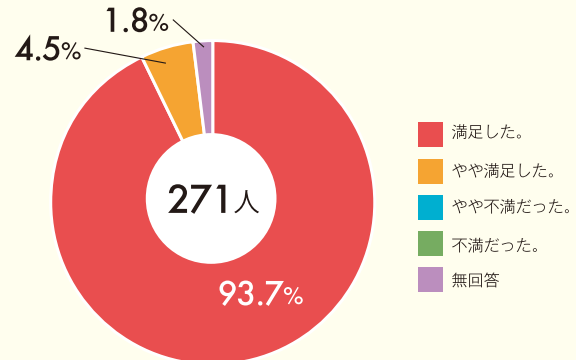
Question 1

この事業のことを何で知りましたか？



Question 2

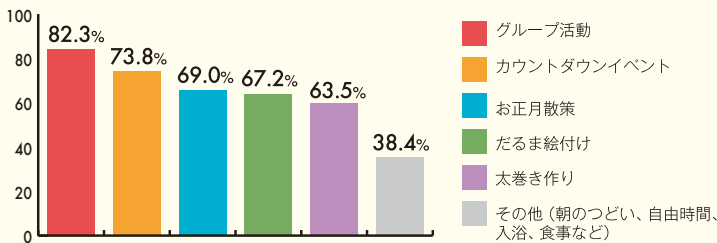
事業に参加して満足しましたか？



Question 3

楽しめた活動は何でしたか？

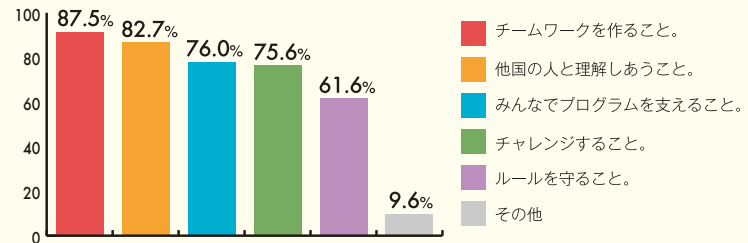
※参加者271人による複数回答



Question 4

この事業で何を学びましたか？

※参加者271人による複数回答

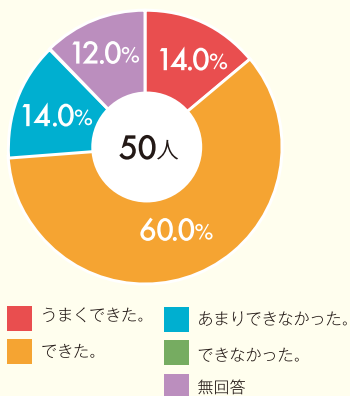


Interview

グループリーダーに聞きました。

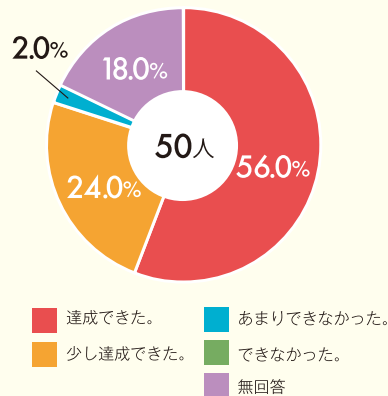
Question 1

グループ運営や参加者への支援・助言はうまくできましたか？



Question 2

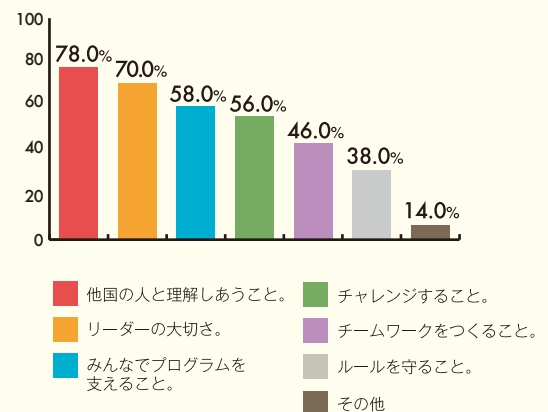
この事業であなたの目標は達成できましたか？



Question 3

この事業で学んだことは何ですか？

※グループリーダー50人による複数回答



スタッフ
全員集合!



チーフ ディレクターの 声



国立青少年教育振興機構 事業課長兼指導主幹

北見 靖直 (きたみ・やすなお)

もうひとつの成果が紡いだラストシーン

スタッフのクロージング。グループチーフの磯田さんの言葉が印象に残った。「大学生、NPO、そして青少年教育振興機構職員、それぞれ違うスタッフたちがこんなに心地良い関係で仕事ができ、これが今年のもうひとつの成果だ」。磯田さんは1年目から共同作業の不協和音をさまざまな場面で指摘してくれた。だからこそ、なおさらうれしかった。まさに本事業が1歩前に進んだことを実感する一瞬だった。

そのときをしっかりと創り出してくれたのが「裏方」スタッフだ。幾夜も越えて参加者たちのシーンを撮り続けた映像チーム。彼らは幾夜の苦闘の末、全参加者の笑顔を動画でひとつひとつ撮りムービーのエンディングシーンを飾った。場内は歓声と感動に包まれた。また誰もいない会場を準備のために走り回ったスタッフたち。あるスタッフはインカムをつけ続け、後ろ姿はいつも全力疾走であった。その姿は私たちにゴールに向かう勇気を与えた。そんな彼らの汗と参加者と向き合うリーダーたちの涙が、国境や文化の違いを超えた参加者たちの「つながり」を紡いだのだ。感動のラストシーンを創り上げた多くの方々に心から感謝したい。

◆ おわりに ◆

本事業の実施に当たり、パンフレットの配布や留学生の方々への広報等にご尽力いただきました、文部科学省高等教育局学生・留学生課をはじめ、独立行政法人日本学生支援機構、国・公・私立の大学、高等専門学校等の担当者の方々に深くお礼申し上げます。また、運営や支援で活躍した、NPO法人good!やNICEのリーダーの方々、事業を側面からサポートしていただきました小学館集英社プロダクションの皆様改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。2013年12月30日にまたお会いしましょう。

2013年1月 吉日



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

ホームページ <http://niye.go.jp/>